

# 文教厚生常任委員会報告書

平成25年8月29日

委員長 芝尾 郁恵

文教厚生委員会に議会閉会中の調査事項として付託を受けておりました事項について、調査の概要を報告いたします。調査に際しましては、平成25年8月2日と5日に、関係部課長に出席を求め委員会を開催いたしました。

## 保健福祉部

### 予防健診課

自殺予防対策事業について、6月25日から、5回に渡り全職員に対しゲートキーパー研修を実施。アンケートの結果、職員の4人に1人は自殺のリスクがあると思われる相談を受けていることがわかった。市民を対象とした研修を、みんなの人権セミナーと合同開催。NPO 法人自殺対策支援センターライフリンクの代表清水氏を講師に、8月31日に開催予定。図書館での啓発コーナーでは、自殺だけでなく、心の悩みなどの参考になるような本をピックアップ、9月の自殺予防週間には、図書館入り口のほうにも、相談窓口チラシなども設置をする予定。古賀市の新型インフルエンザ等対策業務継続計画を作成完了した。子宮頸がん予防ワクチン接種については、健康被害の発生を受け、国からワクチンの積極的勧奨をしない旨の通知があり、市内の接種実施医療機関に連絡を行った。家族コツコツ健康づくり事業について、7月25日現在で骨密度計などを活用し合計1,795人の方の測定をした。古賀北中学校では、全校生徒に実施。今年度は、全校集会、福岡女学院看護大学の松尾教授による授業も行った。また、古賀競成館高校で3年間取り組んだ結果として、運動部に入っている生徒は骨密度、身長伸びが大きいことが分かった。今後も、健康福祉まつり、小学校でのフェスタなどの機会をとらえ測定をしていきたい。がん検診の実施状況について、今年度初めてハガキでの申し込みにし、少々混乱があった。集団検診の結果は、特定検診は、昨年比348人増。各種がん検診は、女性特有のがんの伸び率以外、かなりの成果をみている。今年度初めてレディースデイを設け、集客が期待できる。小野校区の受診率向上に向け、組長会に出向き、啓発した。また、商工会に協力頂き、夜市でも啓発チラシを配布、受診率アップに取り組んでいる等の報告がありました。

委員より、古賀北中学校などに骨密度測定と併せ、自殺予防対策の啓発をしてはどの問いに、学校現場で自殺という言葉は出しにくい、命を大切にすることが必要と感じている。最近、学校から性教育の要望がある。そういった機会を捉えてメッセージを伝えていきたい。

### 介護支援課

高齢化率は、前年比1.15ポイント増の、20.61%となった。要介護、要支援認定者は、前年比、141人増の1,838人。介護老人福祉施設、みどり苑ユニット棟（定員40人）が、9月から運営開始予定。ひとり暮らし高齢者等見守り活動として古賀市内8カ所の新聞販売店と、8月1日に協定を締結した。今後、地域の役員等への周知や広報掲載、新聞の購読者等へのチラシ配布などで周知を図る予定。7月31日開校の健康づくりステップアップ講座は、市民がいつまでも健康で生きがいを持って地域で生活できるよう、さまざまな角度から健康づくりを学ぶ新しい講座として、介護支援課、予防健診課、生涯学習推進課の協同での開催で受講生62人、月1回で計7回実施。シルバー人材センターが、地域社会貢献とPRを兼ね、ワンコインサービスを開始。高齢者のお

困り事を手伝う取り組みで、基本的に30分以内100円。30分以上1時間以内500円。7月1日から実施。現在、周知を進めている。等の報告を受けました。

**委員**より、地域密着型施設の入居状況、待機者の状況についての問いに、グループホームわたしのお家は、4月運営開始、ワンユニットを増設したが、空いている状況。待機者については4月時点で、清滝の里17人。みどり苑は、古賀市内外合わせて160人。要介護度の高さ、家族の状況など総合的な評価を加え入所者を決めている。

また、委員より高齢化率が高い地域に関しては、地域での見守り方などの出前講座を行うなど、所管として何らかの方策を示し注視すべきとの意見が出されました。

## 福祉課

災害時要援護者の同意者が3,310人、同意率は77.0%。県主催の個別計画策定支援ワークショップは、今年度、古賀東区に決まり、8月から12月にかけて4回実施予定。個別計画が策定済みの11行政区の自主防災組織に安心安全キットを随時配布。現在46行政区中、28の行政区に台帳を提供している。第27回古賀市健康福祉まつりを10月20日に開催予定。実行委員会で介護用品の展示、スタンプラリー、飲食の出店、フリーマーケットなど実施の内容の検討を行っている。生活保護受給世帯数は474世帯708人で保護率は12.1パーミル。平成25年8月から生活保護基準が改定され、全世帯合計で50万円強の減額となった等の報告がありました。

**委員**より、安心安全キットは全高齢者に早期に配布されるべき、目処は、健康福祉まつりの高齢者送迎はお考えか。生活保護費減額で苦情、混乱はなかったか等の問いに、安心安全キットは出来たら1年間位でと考える。送迎については、福祉会を通じニーズ調査中、千鳥苑の送迎バス等を考えている。生保受給世帯には、7月1日にすでに通知しており混乱はなかった。

## 子育て支援課

保育所の入所状況は、7月当初の充足率は118.22%で1,064人の入所。依然として高い入所率。子ども・子育て会議の進捗状況については、9月末、本会議を予定、現在、市民委員を公募中、学識経験者等含み15人以内を予定。イクメン道場の活動状況については、全6回の予定で開催、1回目9人、2回目14人の父親が参加。発達ルーム利用者は延べ774人、来室が60%、保育所幼稚園訪問が23%。

**委員**より、古賀市の待機児童の捉え方、カウントの仕方は、また、今後どう発展させていくつもりかとの問いに、待機児童は、国の指針に準じ、どこにも入る保育所がない場合カウント。ミニつどいの広場事業は、高齢者の見守りも含め、もっと広がりをもって各コミュニティ単位で住民が主体的に取り組めるよう構築できればと考える。その他、メディア漬けの問題について保育所長に現状を伺った。

## 隣保館

小学生を対象とした人権平和教室を、8月2日から5日間実施。各小学校から28人が参加。大刀洗平和祈念館を見学。B29爆撃機により亡くなった32人の子ども達が祭られている一ツ木神社に行き、直接当時の体験談を聞き、真の平和教育が出来た。活き生き音楽校は、ひだまり館16名、鹿部集会所30名が参加し楽しまれている。スタンドアローン支援事業は、7月29日から8月23日までの間、24回の実施を予定。参加者は53名で、福祉課保護係、学校教育課や中学校との情報共有など強化し、生活保護世帯・就学援助世帯の生徒へ情報発信を計画的に実施したことで、前年度より、対象生徒数の参加者が増えた。開校式では、古賀竟成館高校の生徒による超ミニコンサートを行い、子ども達との交流を持った。などの報告を受けました。今回、初めてパワーポイントを使った報告を受け、子ども達等の表情まで見て取れ、とてもわか

りやすかった。

**委員**より、人権平和教室の募集の方法とリピーター数はどの問いに、全校生徒にチラシを配布するが、狙いは様々な事情で、夏休みにどこにも行けない生徒に焦点を当てている。28人中リピーターは8人。今回、教師から背中を押され参加した生徒もいる。また、スタンドアローン支援事業に現場教師のかかわりはどの問いに、3中学校の支援加配教員が、スタンドアローン支援事業企画検討部会員として参加しているなどの回答がありました。

## 教育部

### 教育総務課

小野、古賀東、古賀西、千鳥各小学校の大規模改造工事、青柳、小野小学校の扇風機設置工事、花見小学校の散水設備設置工事、青柳小学校の屋内運動場屋上防水工事など、8月中に終了予定。古賀中学校部室改築工事は、11月に発注予定。生涯学習センター及び周辺施設整備設計監理の委託については、現在、設計協議を行い、サンフレアと生涯学習センターをつなげる方向で検討を進めている等の報告がありました。

**委員**より、扇風機の設置工事は、厳しい暑さを考え、早急に進める状況にはならないのか。給食センターを将来、自校式にするというような考えはどの問いに、扇風機設置は来年度も予算要求する、なるべく多くの学校につけたい。給食センターの方向性については、学校が災害時の拠点になることや、自校式のことも含めた協議を今後やっていくことになる。

### 学校教育課

不登校児童生徒数は、6月末現在で23名、適応教室などとの連携で効果がでている。就学援助の支給状況は、申請世帯441世帯、認定世帯357世帯で昨年と変化はない。昨年は、11.8%の認定率。ドリームステージは、9月9日から13日の5日間、市内の125事業所で537名の生徒が体験学習を行う。こしぼねタイムを更に充実させるため冊子を作成、配布中。給食の回数を確認、1中学で連続4日間弁当持参日があった等の報告がありました。

**委員**より、いじめの状況、給食運営委員会でも給食の回数が少ないとの意見もあるが改善は、ゲストティーチャーの受け入れ回数と報酬はどの問いに、いじめの件数は先月8件あった。給食回数は実態に合わせ決定できるようになっている。ゲストティーチャーの活用は、小学校延べ990回、中学校100回、市内の方1,000円、市外の方1,500円を支給している。

### 生涯学習推進課

平成25年度古賀市市民活動団体情報を500部作成、掲載の91団体のほか、市内の小中学校、公共施設の窓口など順次配布、配架する予定。今年度は、企業へも配布予定。登録団体の交流会を開催、資金調達をテーマに公募型補助金の説明や意見交換などを計画。人材バンク登録者一覧も配布、現在45人が登録。7月に古賀市文化芸術振興条例に基づいた振興計画とアクションプランの素案が完成、現在パブリックコメント実施中。6月30日にロビーコンサートを実施。高齢者外出促進事業の参加者56名を含む173人の参加があった。親しみやすく使い勝手のよい施設づくりを目的に実施した、研修棟建て替え及び周辺施設整備に関するアンケート調査は、129件の回答があった。今後、市の方針と意見を併せ、設計の方針が固まり次第公表したい。

**委員**より、人材バンク登録者一覧に名前を記載しない理由は、文化芸術振興計画の核になるものは何か等の問いに、こんな活動をされているという情報提供で十分と判断した。アクションプランの核は、古賀市の眠っている宝を起こす、新しい魅力を興すなど、3つのおこすをキーワードにし、啓発的なスタンスを取り入れている部分ではないかと思う。

## サンフレアこが

谷山北地区遺跡群発掘調査の進捗状況は、現場での遺物取り上げ作業を6月末で完了予定だったが、想定していた以上に遺物が大量に、複雑に出土し、9月までかかる見込み、取り上げ作業は、九州歴史資料館に依頼している。これまでに取り上げた遺物は、パンケース約20箱程度、九州歴史資料館に保管、CTスキャン等の調査及び復元を行って頂く。今後、専門家で構成する調査指導委員会を設置し、その指導により調査等を進めていく。8月下旬に第1回目の委員会を開催予定。また、歴史的建造物等調査結果について詳細な説明を受けました。

図書館から、7月21日に、夏のお話会スペシャルを開催、市内6団体の地域文庫が、エプロンシアター、大型本の読み聞かせなどを行い、子ども56名、大人46名の参加があった。ブックポストの回収状況は、1日3、40冊返却、利用者の利便性も向上し、督促の件数も減少している等の報告がありました。

委員より、歴史資料館でドリームステージの中学生5人を受け入れるが、どういったことをするのかの問いに、開館準備と、掃除などの作業、また子どもの目線で、歴史資料館を利用するときにわかりやすい資料作りをしてもらう。

## 青少年育成課

青少年健全育成事業相談は、昨年同時期に比べ、やや増加の傾向。子ども育成活動は、レッツ！トライトライに41人の参加があった。青柳校区の通学合宿が実施され、参加者が50名と多かったが怪我もなく無事終了した。アンビシャス広場は、6校区が補助をもらい事業を開催していたが、小野校区が自主運営となった等の報告がありました。

委員より、コスモックスのダンスやバンド練習などの発表の場があれば励みになるのではとの問いに、あくまで自主的に練習に来て、3、4ヵ月に1回コスモックスでミニコンサートをしている。わくわくフェスタでの発表の場もある。

## 給食センター

地元農産物の使用状況は、もやし、水菜など野菜は11.4%、米、米粉は100%、全体では43.9%になる。食器の破損状況は、お椀、中皿の合計673枚で3.7%になる。昨年同月の破損率は3.9%、その前年は4.9%なので、学校で食器を大切に使おうという指導が行き届いてきた等の報告がありました。

委員より、栄養士の数、食育指導などの状況。お椀と中皿の価格はとの問いに、栄養士は県から2名、古賀東小学校所属1名、古賀東中学校所属1名、献立の作成や発注、2人で試食会、食育の講話などにまわっている。また、お椀は525円、中皿は405円などの回答がありました。

以上、議会閉会中の調査事項として、付託を受けておりました調査の概要報告を終わります。